

■大井憲太郎 思想家・運動家。自由民権運動左派を指導するも、後に挫折・転向し、近代日本の思想の軌跡を体現した。

おおいけんたろう

順天堂始 1843= 豊前国宇佐郡の生れ。

阿部正弘首座 1845= 2歳 :

..... 1848= 5歳 : 郷校に入り、習字を始める。

万次郎帰国 1852= 9歳 : 温見村の医師に入門し、四書五経の素読を学ぶ。

ペリー来航 1853= 10歳 :

蕃書調所 1857= 14歳 : 修業の志を持ち、書き置きをして中津周辺を漫遊、

五ヶ国条約 1858= 15歳 : 朽網の医師に入門、

桜田門外変 1860= 17歳 : 中津の儒者に入門、

遣欧使節 1861= 18歳 : 密かに家を出て、大坂・讃岐に遊び、

生麦事件 1862= 19歳 : 長崎に至って、蘭医に入門して蘭学を修め、別に英学も習う。

8月18日政変 1863= 20歳 : 医家大井ト新と親交を結び、ともに大坂に行き、義兄弟となつて、以後大井姓を名のる。

禁門の変 1864= 21歳 : 南紀・伊勢などを歴遊したのち、

薩摩藩士密航 1865= 22歳 : 江戸に出て開成所に入り、フランス学を学び、舎密局で舎密学を修めて、同局の世話心得となる。

大政奉還 1867= 24歳 : 幕府医官三浦文卿の家塾に入り、そこから通勤。「舎密局製鍊備考」を著す。

明治維新 1868= 25歳 : 戊辰戦争では江戸城に籠る。維新後、横浜MM商會に勤め、フランスから帰った箕作麟祥の塾に入る。

戊辰戦争終 1869= 26歳 : 箕作帰京のため、大阪舎密局教師ガラタマの助手を務めたのち、

初の日刊新聞 1870= 27歳 : 帰京して、再び箕作の塾でフランス学を研究、大学南校に進み、その寄宿舎に入る。

廃藩置県 1871= 28歳 : 兵部省の翻訳官となるが、

学問のすすめ 1872= 29歳 : 辞して、翻訳を業とし、

明治6年政変 1873= 30歳 : 陸軍省に出仕、江藤新平の委託で「仏国法典」を翻訳、政治書などを通じてみずからの政治思想を培い、

佐賀の乱 1874= 31歳 : *通志社を興して(叢談)を刊行、東洋社を設けて書籍を出版し、議會政治思想の普及を称、民撰議院設立論争には馬城台二郎の名をもって参加、加藤弘之の民撰議院設立尚早論に反駁、徹底した民権論を展開。

初の民間工場 1875= 32歳 : 元老院法律調査局少書記官に任命されたが、

三つの反乱 1876= 33歳 : 元老院幹事の陸奥宗光と衝突して辞し、自由民権のため私立法律学校の始めとなる(講法学社)を開く。

西南戦争 1877= 34歳 : (明法学社)を始め、

大久保暗殺 1878= 35歳 : その教授を通じて、民権思想を喚起。

琉球処分 1879= 36歳 : (曙新聞)の記者として、板垣退助と呼応、国会開設の急務を力説。「仏国政法論」を翻訳。

..... 1880= 37歳 : 国会開設期成同盟會に参加、

明治14年政変 1881= 38歳 : *代言人(弁護士)免許を得る。結成された自由党に入り、運動の先頭に立つ。

新体詩抄 1882= 39歳 : 自由党常議員。東京代言人組副会長。

岩倉具視没 1883= 40歳 : 福島事件統一裁判を勝ち取り、自由民権の青年団体有一館を設立するなど、民権運動の中心にあったが、

内閣発足 1885= 42歳 : 朝鮮内政改革を企て、資金を集めて爆薬を製造したいいわゆる大阪事件をおこし、逮捕・投獄される。

帝国大学始 1886= 43歳 : 監獄の中からも、(時事要論)を刊行し、「自由略論」を著述するなど、意気は衰えず、

初の対等条約 1888= 45歳 : 上告するも破棄され、重懲役9年に処せられた。獄舎にある時、糟糠の妻が死去。

帝国憲法発布 1889= 46歳 : 憲法発布で大赦出獄、「自由略論」を刊行。東京倶楽部を立て、

帝国議會始 1890= 47歳 : 中江兆民らと自由党を再興、立憲自由党に発展させ、藩閥政治を糾弾、

足尾鉞毒始 1891= 48歳 : 労働細民・小作人の味方(あづま新聞)を発刊。議會政党化にあきたらず、党内に東洋倶楽部を結成、

大本教 1892= 49歳 : 第二回総選挙で落選、脱党して東洋自由党を結成、(新東洋)を創刊し、

郡司千島探検 1893= 50歳 : 労働細民・小作人のための戦闘的民権運動を強める一方、アジア変革の指導者として東洋経営の国是を定めようとする国権論を掲げ、外人の内地雑居に反対する大日本協會に参加し、対外硬派の運動を担う。

日清戦争始 1894= 51歳 : 第三回総選挙で当選。

日清戦争終 1895= 52歳 : 労働協會を設立して労働問題研究に先鞭をつける。

白馬會 1896= 53歳 : 普通選挙期成同盟會を起す。

八幡製鉄始 1897= 54歳 : 自由・改進黨による憲政黨の設立にも寄与。貿易に携わり、シンガポールに渡航、宮崎滔天に会う。

子規句歌革新 1898= 55歳 : 憲政黨が分裂した憲政本黨の総務員。

Bushidou 1899= 56歳 : 大日本労働協會、小作条例期成同盟會を組織、

ビアノ産化 1900= 57歳 : 普通選挙同盟會の評議員となり、再び労働者、細民の運動を展開したが、

田中正造直訴 1901= 58歳 : 社会主義者の指導する労働運動が高揚してきたため、大日本労働協會、小作条例期成同盟會を解散。

教科書疑獄 1902= 59歳 : 海外移民調査會を作り、移民事業への関心を示し、

日比谷公園 1903= 60歳 : 穏健な社会改良主義の(平民之友)を発刊。

日露戦争終 1905= 62歳 : 満州に渡り、

満鉄発足 1906= 63歳 : *関東労働保護會を組織し、労働者をはじめとする満州移民を奨励したが、もはやそこにはアジア民族への連帯の志向は失われ、大陸浪人一般とならぬ変わらぬ侵略主義が見られるのみとなる。

伊藤博文暗殺 1909= 66歳 : 帝国新聞付録に「土地国論」を発表、

明治天皇没 1912= 69歳 :

21ヶ条要求 1915= 72歳 :

本格政党内閣 1918= 75歳 : 後妻が死去。再興された普通選挙同盟會に加わり、

ハガキ運動 1919= 76歳 : ハガキ運動を提唱するなど、

*"民権と国権の確立"を同時的課題とせざるをえなかった近代日本の思想の苦悩の軌跡を体現し続けて、

原敬首相暗殺 1921= 78歳 : 危篤におちいり、持ち直したが、

水平社結成 1922= 79歳 : 没した。